



マリンバイオ同好会活動報告 平成22年度No. 1

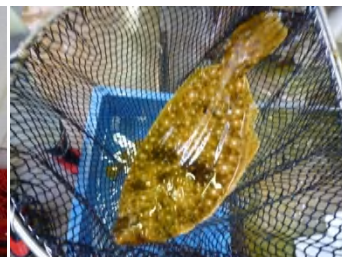
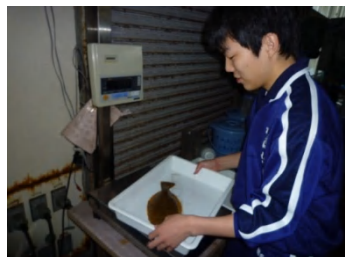
冬期は低水温のため生物全体の動きが鈍く、生物採集や飼育を活発に行うことができません。そのため、この期間は収集したデータの整理や掃除、春に備えて飼育施設の整理が主な活動となります。

～2009年12月～

☆ヒラメ親魚育成(12/9)

マリンバイオ同好会では2008年5月に孵化したヒラメを飼育しています。

その中で特に大きな個体8尾(約900g)を、親魚として10t水槽へ移動しました。



[2009年4月の様子]

[1年半、大切に育てたヒラメの移動]

☆魚類相調査(12/19)

雪が降っても魚類相調査は行います。

水温が低下するため、採取や目視される生物が減ってきました。



[棧橋へ]



[カゴ採集]



[記録]

☆大掃除(12/21)

栽培漁業実習棟1階を中心にを行った年末大掃除の様子です。準備室の床磨きやガラス器具の洗浄、その他整理整頓を行いました。



[掃き掃除、床磨きの様子]

～2010年1月～

☆魚類相調査

降雪や、雪融け水流入などで海水温が低くなり、魚類相調査で目視される魚種が激減しました。カゴ採集では、種類の減少はあまり見られませんでした。採集個体数が減少しました。

水温が低下したことにより海藻が繁茂し、ナマコ・ウニ・ヒトデ類(棘皮動物)が多く観察されるようになりました。

日	付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水槽水温(℃)		12.3	12.2	12.7	12.5	12.7	12.4	12.2	12.2	12.4	12.5
表面水温(℃)					14.3	13.0	12.0	10.0	11.9	11.9	9.1
天候		雪	曇	曇	晴	曇/雨	雪	雪/曇	雪/雨	晴/曇	雨
目視種類数					1	1	2	4	3	1	1

☆骨格標本

ヒラメの頭部骨格標本を製作しました。



〔 茹でる 〕



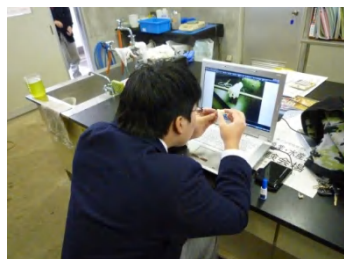
〔 身の分離 〕



〔 記録撮影 〕



〔 並べて乾燥 〕



〔 写真を見ながら組み立て 〕



〔 完成 〕



～2010年2月～

☆ハリセンボン頭部骨格標本



〔 頭部写真 〕



〔 身の分離 〕



〔 完成 〕



～2010年3月～

☆驚異の目視！（3／17）

魚類相調査中、海洋棧橋において短時間でしたが、なかなか生きている姿を見ることのできない深海魚「サケガシラ」を目視することができ、素直に驚きました。

〔 栽培漁業実習棟に持ち込まれたサケガシラ 〕→



～2010年4月～

☆活動本格始動

水温が上昇し、魚類等の動きが活発化してきたため本格的に活動開始です。



〔 飼育水槽管理の様子 〕

～2010年5月～



☆ヒラメ採卵(5/4)

今年は早くから産卵を始めたヒラメ。採卵し、1t 円形水槽で飼育を開始しました。



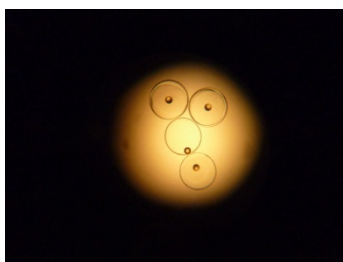
[採卵]



[ゴミとの分離]



[卵収容]



[採卵直後]



[孵化直前]



[孵化直後]



[6日後 開口]

☆深海魚(5/24)

水面をふらつくようにしていた「テンガイハタ」の幼魚を偶然採捕しました。採捕した時は河川水流入(水潮)の影響があるのか、すでに弱っていました。そのため、すぐに死んでしまいました。

「テンガイハタ」は「アカマンボウ目フリソデウオ科」の魚で、普段は沖合の中層域に生息していると思われます。なかなか目にする機会はありませんが、まれに沿岸で見られることがあります。アカマンボウ目には、「サケガシラ科」「リュウグウノツカイ科」などがあり、最近沿岸に打ち上げられて話題を呼んでいる深海魚はこの仲間です。



和名:テンガイハタ

学名: *Trachipterus trachipterus*

英名: Ribbon fish

☆その他 活動風景



[ヤドカリ判別]



[水槽設置]



[投網]



[珍客]

- 今年は昨年より早い時期から「カレイ」「アナハゼ」「ネズツポ類」などが投網により採集されるようになりました。
- ハシブトガラスが栽培漁業実習棟の中に入り込み、カメの餌を食べていました。捕獲し、自然に帰しました。

